

クリップ通信

平成30年6月17日 第7号

〒180-0006

武蔵野市中町 1-34-3-409

代表取締役 林 暢介

編集者 松田 美幸

◇◇◇ 第三者評価を受けそして新たな道へ ◇◇◇

NPO 法人 東京自立支援センター 伊藤 英治



◇◇◇ 先人から学んだこと ◇◇◇

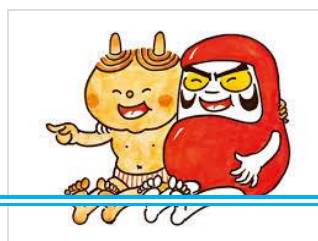
株式会社クリップ 代表取締役 林 暢介

絵本作家のかこ さとしさんが今年の5月2日に永眠されました。私の拙い記憶の糸を辿ると、手足がよきと生えているだるまちゃんの挿絵とノミが人間の大きさだったら、そして壮大な宇宙への誘いの絵コンテを思い起こすことが出来ました。そして当時、絵本を通じて扉の隙間から科学を覗き見ることが出来たことが、理系に進む人生を後押ししてくれたように思っています。亡くなられた後、図書館にはかこさんの絵本のコーナーが新設され、紙面での特集も半端な数ではありません。渦中、絵本作家のヨシタケ シンスケさんの追悼文が目にとまりました。「根底にある戦争体験を通じ、子どもたちに間違っただけの選択をしてほしくない、自分の頭で考えなければならないという命をかけたテーマを持ち・・・」との一節です（朝日新聞2018年5月15日付紙面）。

昨今、あらゆる場面で「考えること」の重要性が置き去りにされていると感じています。深くは掘り下げませんが、インターネットの普及が後押ししているのでしょう。しかし、福祉の現場では特に考える力が職員に求められます。何せ、目の前にいる利用者が次の瞬間に起こす行動や発言は過去に起こした行動や発言と同一の場面はないのですから、その刹那に対し最適の対応をしなければならぬ職員は考える力が求められるのは当然のことです。「でもね、林さん、そんな理想ばかりを言っても現場は回りませんよ！」と管理者にたしなめられることもしばしばです。「確かなあ〜！」と心揺らぐ林 暢介がいるのも確かでした。今回、追悼文を目の当たりにして、「心揺らぐ林 暢介にカツ！」と戒める次第です。

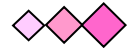
昨年度から評価のコメントを【現状】【課題】【目標】の3つに分類する活動を推し進めて来ました。今年度もその方針に変わりはありません。現状から課題を見出し、課題を解決するための目標を設定することでお客様である事業所の更なる成長を促す評価を実施します。

一方、人材育成を評価に織り込む側面も引き続き追求して来ました。言わば、次世代を担う職員の育成に評価を活用する仕掛けを作ってきました。今回、かこさんの自分の力で考えるという揺るぎのないテーマに触れ、自分の力で考えられる職員の育成こそがクリップの評価でなければならないと改めて肝に命じています。そのための仕掛けに自らの精を込めたいと思います。

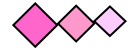


『焦らない・怒らない・威張らない・腐らない・負けない』クリップ代表・林さんから評価を受けた時の最初の言葉だった。頭の文字を取って、『あ・お・い・く・ま』（青い熊）と覚えるそうで、これは、人気物まねタレントのコロケさんのお母様が小さい頃からコロケさんに向かって言っていた言葉だそうです。平成21年1月1日に富士聖ヨハネ学園（山梨県・忍野村＝都外施設）の地域移行の一環として日中活動の就労移行支援事業所を小金井に開所し、開所しても間もない3月に学園から異動してきた。居住施設の経験はあったものの、恥ずかしながら就労移行という内容はおろか言葉も知らなかった。そこから勉強が始まり、就労移行とは何？就労してもらうには何が必要？どんな研修があるのだろうか？と自問自答の毎日では受けても合格する訳もないジョブコーチの試験を受けにいったりもした。幸い、理解ある上司・素直な部下に恵まれ、毎年、就労実績も出す事が出来た。開所3年目に第三者評価を受けることになり、そこでクリップ代表の林氏と会う。この評価を受ける時に揃える書類一覧を見て『こういうものが必要なんだ。』と思ったのも事実で、その後、あるべき姿・進むべき道を指し示して頂き、具体的な目標も出てきた。以降、小金井聖ヨハネワークセンターで26年・29年の3回。小金井聖ヨハネ支援センターで1回、清瀬聖ヨハネ支援センター、富士聖ヨハネ学園を含めると聖ヨハネ会では10回程度、評価を受けている。代表の林さんは書物をよく読み、その都度、楽しい話題のコメントをくれます。二度目のコメントは、高齢者が老け込まない為の『か・き・く・け・こ』。三度目は何かと期待していたが、そのようなコメントは特に貰えなかったが、もっと深い話でした。現場にいる時は、管理職の至らない部分を突いてくださいよ、と思い、管理職になれば、もっと上の部分を突いてくださいよ。と思ってみたが、林さんは常に冷静で、その様な指摘は全くしない。無駄な争いを作らない事ともっと高みから評価し、尚且つ、冷静に分析し問題点を指摘してくれていました。聖ヨハネ会で福祉のイロハから教わり、利用者・先輩職員に育てられ、学園のすべての部署・寮・作業班に関わり、東京に異動し日中活動の就労移行・就労継続B型・生活介護を学ばせていただき、定年退職を迎えた。第二の人生として就労継続A型の事業所を体験したことがなかったので、A型事業所も持つ東京自立支援センター（東京都国立市）でお世話になることになった。ワークセンターを始めたばかりの時に研修の講師として来ておられた方が現在では理事長となり活躍されている。その縁が元でお誘いを受け、サービス管理責任者としてお世話になることになった。学ぶことが多く【日々、勉強】の毎日だが、素敵な職員・メンバーさんに囲まれ、『焦らない・怒らない・威張らない・腐らない・負けない』の言葉を頭に置き、日々、感謝し、楽しく学びながら奮闘する毎日です。ありがとうございました。





(株)クリップさんとともに歩んで



評価者 松波 希代子

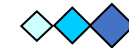
(株)クリップさんとの出会いは、グループホームを立ち上げし、他の第三者評価機関で数回受審後、前に進むために“刺激を求めて”第三者評価機関を探し始めた時でした。グループホームを良くご存じの機関に評価を受け自事業所の現状を知りたいという思いで「とうきょう福ナビゲーション」で第三者評価機関の実績を検索し(株)クリップさんに辿り着きました。何のつてもなく緊張して飛び込みでお電話をしました。林社長の「いいですよ。」と即座に返答頂き、何だかこれで自事業所が良い方向に向かうのではという期待を持たれた記憶があります。そこから第三者評価を通じてお付き合いが始まり、(株)クリップさんに2年に1回グループホーム2事業所の評価をお願いし、かれこれ10年が経ちました。

(株)クリップさんの評価を受け始めたころの自分を思い浮かべますと今も赤面します。第三者評価から学びを得て自事業所を良くしたいという自分と情報公表の点から良い評価結果を得たいという自分が共存して、鎧を着て林さんや評価者の方に隙を見せまいとしていた小さい私がありました。後日、林社長とその頃の話をする時苦笑されていました。林社長の目にはどんなふう映っていたのでしょうか。それから(株)クリップさんの評価を受ける毎に評価を受ける意味を学び、飾らずありのままの評価を受け林社長の励ましや厳しい言葉を頂き時には弱音を吐きながら評価を糧に少しずつ歩むことができました。

私事ですが一昨年林社長から思いがけず評価者のお誘いを頂き現在の仕事と評価者を兼務することになり、評価を受ける事業所と評価者の立場の双方を経験しています。評価者研修で改めて第三者評価の目的「利用者のサービスの選択及び事業の透明性の確保のための情報提供」「事業者のサービスの質の向上に向けた取り組みを推進」を再確認し、そして(株)クリップの理念「共に歩み、共に進む」のもと評価者のスタートを切りました。実際に評価者として事業所に伺うと評価を受ける事業所側の事情や思い、悩み、評価者に知ってほしいことそうではないことが入り交る管理者の感情や緊張・期待感に共感する自分と、事業所から必要な情報を収集し客観的に評価しようとする自分がいて不思議で複雑な感覚を覚えました。

(株)クリップさんは平成29年“評価のPDCAをまわそう”をテーマに、評価者が意図を明確化し意思が伝わるよう評価者が記載するコメントを【現状】、【課題】、【目標】の3つに分類します。実のところ新人評価者にはハードルが高く3つに分類することさえ難しく更にコメント記載では途中で手が止まってしまいました。林社長にはご苦労をおかけしました。一方、事業所の立場では、評価者が現状から課題を導き出し、目標を提案してもらえる評価結果は、次に進むべきステップが明確で質の向上に向けた取り組みが実践しやすくなると思います。その次の第三者評価には取り組んだ過程や結果の評価を受けられるため「共に歩み、共に進んで」いけると実感でき、第三者評価が強い応援団となります。今年度評価を受ける事業所として【現状】、【課題】、【目標】に記載されるコメントにとっても期待しています。今から何か変わるのではないかとワクワクしています。

平成30年度は評価者2年目です。「ひよっこ」評価者ですが、諸先輩皆様方に指導ご鞭撻を頂きながら一步一步歩み、事業所側の思いと評価者、双方からの視点を評価に活かせるよう努めていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

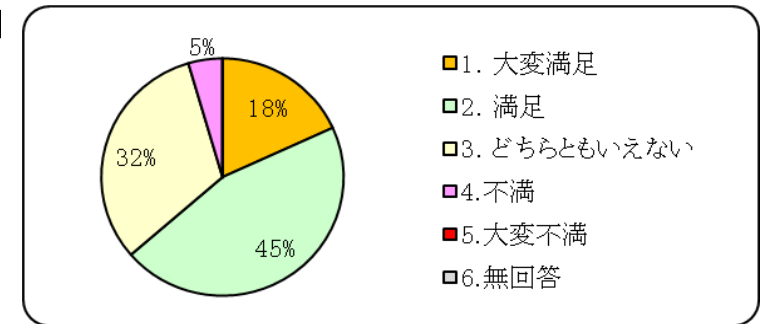


平成29年度 オリジナル評価実施事業所満足度調査結果



【今回の評価結果に対する満足度を教えてください】

22名(18事業所)よりご回答を頂きました。大変満足18%(4名)、満足45%(10名)、どちらともいえない32%(7名)、不満5%(1名)。21件のご意見を頂きました。参考意見として、「違う視点で今後も見て頂きたい」との期待のある意見、「事業所全体としての評価をもう少し頂けたらと思いました。」との意見を頂きました。



質問項目として、【今年度から、【課題】【目標】を設定させて頂いています。ご意見をお聞かせ下さい。】を追加しました。19件のご意見を頂きました。参考意見として、「課題・目標がある事で、克服・達成するためにどうするか?を考えるきっかけになる。」「具体的に課題や目標を頂く事で、事業所として今後の方針が打ち出しやすい。」等のご意見を頂きました。頂きましたご意見は評価者と共有し、よりよい評価実施を目指してまいります。アンケートにご協力頂きまして、有難うございました。



編集後記



松田 美幸

クリップ通信は今回で7号を迎えます。年1度のクリップ通信作成にあたり、原稿をどなたに書いて頂こうと考えつつ、原稿のお題も“クリップとの出会いや、福祉に対する思い・人生観等も含めて”とハッキリとしたお題も出さずに皆さんに託しております。人生経験や率直な感想を綴って頂き今年も素晴らしいクリップ通信ができました。有難うございました。

クリップ通信ではその年のクリップの評価の方針をお伝えしています。進化し続ける林社長に、「なぜ? 毎年方針をかえるのお～」と頭の中をのぞいて見たいと思っている松田もいます。常に「共に歩み、共に進む」を曲げることなく突き進んでゆく林社長! 時には突っ走り過ぎる時もしばしば・・・笑

クリップの評価の方針にご賛同頂き、共に評価を行って下さる評価者の方々や事業所の方々に支えられ評価が行えております。ご苦労をおかけしますが、今年度も宜しくお願い致します。

最後にクリップ通信に原稿をお願いしました 伊藤様 と 松波様 に

この場をお借りして御礼を申し上げます。

